

岡田 進 おかだ すずむ

1946年生まれ、埼玉県飯能市在住。北陸から東北地方をメインに、鳥取や九州など全国のチヌ釣り場を駆けめぐる。自己最長寸記録は61.5cm。平成5年「ウキ工房」設立。

“近く、浅く”がキーワード!

フカセ釣りの基本である、「付けエサとオキアミ・配合エサの層の同調」をより容易におこなうため、岡田氏は「近く、浅く釣る」ことを心がけているといいます。その釣りのための戦略を語っていただきました。

私の釣りのスタイルは、なるべく近く、浅くを釣ることが基本になります。その理由はいくつか挙げられますが、まず釣りが簡単になるということがありますね。チヌのウキフカセ釣りではないよりも重要なのは、付けエサとオキアミ・配合エサの層の同調ですが、これが遠くや深くを攻める場合よりも、非常に簡単にできます。

なかには、「近場を攻めるのは分かるが、浅く釣ろうにも、チヌは底にいる魚なのでは?」と思われる方がいらっしやるかもしれませんが、たしかにチヌは底付近で生活している魚で、厳寒期などは深いところでもじっとしており、せいぜい落ちてきたエサを拾う程度です。ですが、水温が上がるなどして活性が高まると、エサを食うために浮いてくるという面ももっているんです。

その他の理由として、私は付けエサをオキアミ・配合エサの層と同じように

な速さで沈下させ、その落ち込みで食わせる釣りをしているというのがあります。そのため選ぶ配合エサは軽いものが主となり、結果として、浅ダナを釣っているということになるわけです。

浅いところを釣るのも底を狙うのも好みの問題ですので、どちらが優れているといったことはありません。ただ、私は磯で竿を出すことが多く、底の起伏が激しい場合がほとんどです。だから底に魚を寄せたとしても、仕掛けはその上を流さなければならぬという不利な面があるのも関係しています。もちろん最初から底がフラットだと分かっていたり、障害物の少ない堤防周りで竿を出す予定であれば、私も底で効くような配合エサを使うことはあります。

さて、それでは各季節別に、私のオススメブレンドパターンを紹介していきます。

岡田氏は釣りやすさを考え、浅くて近いところを釣るといいます。



「チヌパワーV10白チヌ」は、目立つ白さが特長の配合エサ。
魚へのアピールだけではなく、潮の流れも把握できます。



春

私の春のお薦めブレンドパターンは、「チヌパワースペシャル銀牙」3袋に、「チヌパワースペシャルMP」1袋、そしてオキアミを6kgというものです。

春は海面から水温が上がっていくので、条件が合つと、チヌはかなり浮いてきます。ただ、まだまだ水温が低くて活性の低いときもある。そのため、その両方のシーンに対応するために、着水後にすぐに拡散する「チヌパワースペシャル銀牙」と、重めで抜群の集

魚力をもった「チヌパワースペシャルMP」をブレンドするというわけですね。釣り方としては、上層から底まで、じっくり探っていくような感じになります。

もう少し詳しく各配合エサの特長を紹介すると、「チヌパワースペシャル銀牙」は、グレエサのように高い拡散性をもった配合エサ。ひと撒きで着水直後から拡がって幅の広いスローブを形成し、重さの違う3種類の練りエサの粒やムギ、コーンが沈下していく。また、これらの素材がチヌの視覚にもアピールすると考えています。

夏

「チヌパワースペシャルMP」は、とにかく集魚力に優れたエサ。高タンパクなMP(マキシマムプロテイン)酵母や、さなぎ、ムギ、カキガラ、魚粉などの集魚成分を大量に配合しており、マルキューのチヌ用配合エサのなかでも集魚パワーは最高レベルです。

乗っ込み後半からの夏期は、「イワシパワーチヌ」を3袋に、「チヌパワーV10白チヌ」を1袋、そしてオキアミ6kgというブレンドパターンがいいでしょう。

「イワシパワーチヌ」は、集魚力に優れた「純正イワシ粉末」や、食いを持続させる成分であるUGFなどが含まれた、寄せる力に優れた配合エサ。「チヌパワーV10白チヌ」は、目立つ白さが特長の配合エサです。ともに、つくり次第で拡散の仕方や沈下速度が変わるので、浅いところから深いところまでの自在な攻略が可能ですね。

私の釣りのイメージとしては、だいたいこの時期のチヌは潮の動かない浅場にいると考えているので、オキアミや配合エサを底付近で溜まるのではなく漂うように仕上げ、チヌをそこに足止めするという感じで釣っています。

春のブレンドパターン(一日分)



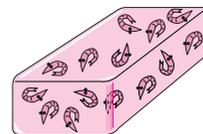
チヌパワースペシャル銀牙
3袋

+



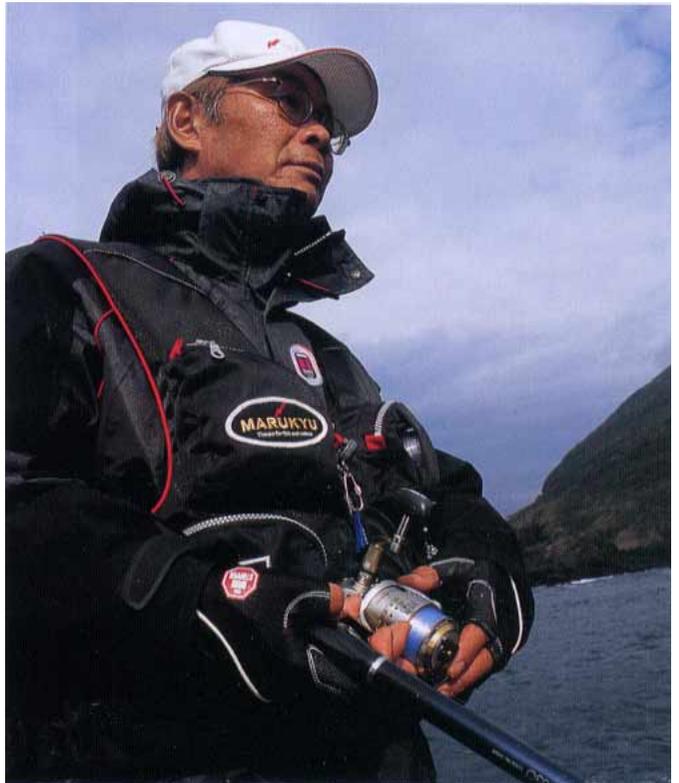
チヌパワースペシャルMP
1袋

+



オキアミ
6kg

チヌを集めるため、エサ取りの摂餌音を利用することもあった岡田氏はいます。



潮の流れを読みながら、ラインメンディングをする岡田氏。適切な仕掛け操作が、釣果を生むのです。

ちなみに、この時期の釣りに関して、私はオキアミや配合エサの集魚成分でチヌを集めるといっても、エサ取りがエサを食べている音などでチヌを刺激し、寄せようという考えをもっています。集魚成分はおもに潮下に効果を発揮するものですが、音というのは、潮上にいるチヌにもアピールできますからね。それに、水中では音は、かなり遠くまで届くものです。

そのためにはエサ取りを集めて活発にエサを食わせないとダメですから、配合エサは量が必要になってくるんです。そういったわけで、「チヌパワーV10白チヌ」の3,500g入りという量にも助けられています。

補足になりますが、「イワシパワー」や「チヌパワーV10白チヌ」をブレンドしてしまうと、「チヌパワーV10白チヌ」の白さが際だたなくなるのでは、と思われる方がいらっしゃるかもしれませんが、そんなことはありません。海中では2つのエサが分離するのだから、しっかりと目立っていますね。

秋

秋も、夏のブレンドと同じでOKです。基本的には活性のかなり高い時期ですので、夏と同じように、チヌは集魚成分で寄せるといふより、エサ取りに集めてもらうことを意識しています。ただ、落ち前でもかなり活発にエサを食うんですが、少し活性が下がって底の方で食べたりと、タナが分かりにくいこともあります。ですので釣り方とし

夏・秋のブレンドパターン(一日分)



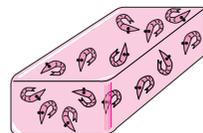
イワシパワーチヌ
3袋

+



チヌパワーV10白チヌ
1袋

+



オキアミ
6g

練りエサは、釣況に合わせて形を変えられるのもメリット。



冬

ては、春のように上層から底まで、じっくり探っていくような感じですね。

この時期は、チヌは活性が低く、あまり浮いてこようとほしません。ですので、重さと集魚力を考えたブレンドになりますね。「チヌパワースペシャルMP」2袋と、「チヌパワースペシャル銀牙」2袋、そしてオキアミ6kgというブレンドがいいでしょう。

各エサの特長は先にも述べたとおり、「チヌパワースペシャルMP」は重さとネバリがあり、集魚力がピカイチの配合エサ。「チヌパワースペシャル銀牙」は、優れた拡散性と視覚効果のある配

合エサです。この2つのエサを組み合わせて、宙層から底のエリアで効果を発揮させるようにします。

■ 付けエサ

では最後に、付けエサに関して話を進めていきたいと思います。私は基本的には、シーズンを問わずオキアミエサの「ミラクルエース」は必ず用意するようにしています。スーパー生加工を施してあるので、生オキアミよりも身がしっかりとしていて、エサ持ち、食い込みともいいのその理由ですね。フェロモン系特殊誘引剤「ウルトラバイト・アルファ」が添加された「くわせオキアミスペシャル」もお薦めです。春先には、練りエサの「バラケネリックス（アミ）」も用意するようにしています。

オキアミが残ってくるような状況でもこれには食ってきたりします。

夏から秋にかけて大活躍するのが、さなぎの成分が入った練りエサ「ネリックス（サナギ）」です。エサ取りにも強いですし、なんととっても水温の高い時期、チヌはサナギの成分を好むのか、よく食ってきます。あとは、付けエサをローテーションさせるという意味で「くわせ練りエサ・チヌ」なども用意しています。これはチヌの食欲を刺激するニンニクとアミエビをたっぷり配合した、板状タイプの練りエサですね。練りエサは、エサ取りが多すぎる時は大きめにハリ付けしたり形を変えたり、食いが悪いときは練り直してやわらかくするなど、釣況に合わせる事ができるのも魅力です。

マルキューグッズ はみだし情報・2

パワー水くみバケツ 17C

汲んだ海水量がすぐに分かる、水量線付き(約5リットル)の水くみバケツ。水をくみ上げるときに滑りにくいよう、パワーグリップコード(8m)を採用。コードを巻き付ける、便利なコードホルダー付きです。



若干誤差が出る場合があります。目安としてお使いください。

冬のブレンドパターン(一日分)



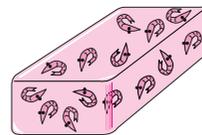
チヌパワースペシャルMP
2袋

+



チヌパワースペシャル銀牙
2袋

+



オキアミ
6kg